

①朝活！カフェプロジェクト

■プロジェクト概要

地域に誰もが参加できる、一緒に朝ごはんを作ったり食べたりする場と、体験・学び・交流の場を創る。

■目指す姿

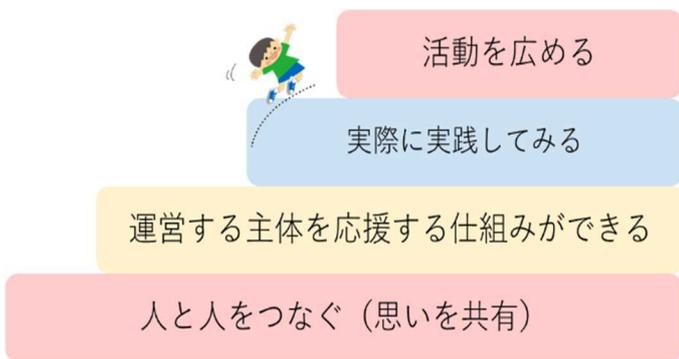
- ・地域の中に共食や交流の場がたくさんある
- ・楽しく朝ごはんを食べることができるようになる

【実現までの課題とチャレンジ例】

【課題】	【解決策】
・人材確保が難しい	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成講座 ・多様な主体からの参画 ・学生などの次世代人材の参画
・財源確保が難しい	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウドファンディングの活用 ・企業からの出資
・情報発信が難しい	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパー掲示板などの活用 ・参加しやすい開催場所の工夫
・食と異業種体験の連携体制づくりが難しい	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内コーディネーターの育成
・ライフスタイルなどによって朝ごはんを作ることが難しい	<ul style="list-style-type: none"> ・時短レシピなどの情報提供 ・調理体験の企画 ・共食できるイベント企画や拠点づくり



【プロジェクトのステップアップ】



【地域の動き】	【課題】
■こども食堂の広がり <ul style="list-style-type: none"> ・日詰地区社協と町社協が日詰公民館で実施。R4年度は町社協がこども食堂運営に取り組む団体等への補助金制度を新設。 ・子ども食堂に財政支援する企業・個人の存在。 ・新たな活動実施主体(co place)の誕生。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の周知（補助金情報、開催情報など） ・コロナ等の安全対策 ・支援者と活動実践者を繋ぐ仕組み ・こども食堂の企画コーディネート
■紫波総合高校生と地域の共食の場づくり <ul style="list-style-type: none"> ・地域の支援者を招き、生徒が作った豚汁を全校で食べるイベントの実施（10/28） ・生徒によるワンデーシェフの実施（12/9） ・高校生の食生活改善、地域の協力者（ぶどうの樹、紫波郡生活研究グループ連絡協議会）との交流の場づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・採算の合う事業計画 ・食品衛生法などの法令関係の手続き
■調理体験の企画 <ul style="list-style-type: none"> ・透明の鍋を使った炊飯実演と併せて、子どもが自分でおにぎりを握って食べる実体験を企画・実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・採算の合う事業計画 ・実施主体の連携

②野菜POPコンクールプロジェクト

■プロジェクト概要

地域に誰もが参加できる、一緒に朝ごはんを作ったり食べたりする場と、体験・学び・交流の場を創る。

■目指す姿

- ・地域の中に共食や交流の場がたくさんある
- ・楽しく朝ごはんを食べることができるようになる

【実現までの課題とチャレンジ例】

【課題】	【解決策】
・人材確保が難しい	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成講座 ・多様な主体からの参画 ・学生などの次世代人材の参画
・財源確保が難しい	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウドファンディングの活用 ・企業からの出資
・情報発信が難しい	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパー掲示板などの活用 ・参加しやすい開催場所の工夫
・食と異業種体験の連携体制づくりが難しい	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内コーディネーターの育成
・ライフスタイルなどによって朝ごはんを作ることが難しい	<ul style="list-style-type: none"> ・時短レシピなどの情報提供 ・調理体験の企画 ・共食できるイベント企画や拠点づくり



【プロジェクトのステップアップ】



活動を広める

実際に実践してみる

運営する主体を応援する仕組みができる

人と人をつなぐ（思いを共有）

【地域の動き】	【課題】
<ul style="list-style-type: none"> ・保育園給食に提供させる食材の展示・紹介や生産者との交流 ・地産地消食品メニュー・生産者の紹介（園の玄関） 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における交流制限 ・食材供給生産者の開拓
<ul style="list-style-type: none"> ・町内保育所と連携し、園児が描いた絵を町内産直に掲示し、子育て世代の産直への回遊を図る事業を計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初から事業計画化 ・食材提供をしていない産直の意識
<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校での食・農の発信 ・日詰小学校のわんぱくまつりで、農政課による出前講座（R4年度で3回目） →考案したみそ汁レシピを給食メニュー化 	
<ul style="list-style-type: none"> ・オガール保育園、虹の保育園が町内農家で農業体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・R5年度に向けた受入農家の開拓 ・事業化
<ul style="list-style-type: none"> ・古館地区のこどもの家（古館ヤンチャークラブ）での農作業体験と調理実習の実施 	

③食材セット産直販売プロジェクト

■プロジェクト概要

給食メニュー等のレシピと食材セットを販売し、家庭用のメニューに活かす。

■目指す姿

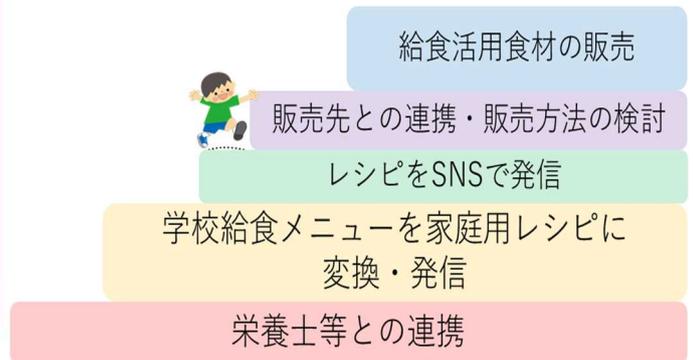
- ・家庭の食を応援する情報や販売形態が充実している。

【実現までの課題とチャレンジ一例】

【課題】	【解決策】
・家庭用レシピの作成	・栄養教諭との協力 ・栄養士等との連携
・販売先との連携	・スーパー産直との連携
・認知度向上	・情報発信 ・子育て世代への発信



【プロジェクトのステップアップ】



【地域の動き】	【課題】
・学校給食の人気レシピ公開	・提供レシピ数の拡大 ・情報発信手法の検討
・給食での地産地消 ・食材・生産者の SNS を紹介	・発信人材の確保/育成 ・生産者の開拓
・学校給食で活用している食材の産直販売	・認知度向上
・地産地消惣菜の販売 ・保育園やこどもの家などで出張販売実施の検討	・商品化 ・販売形態の確保
■盛岡大学と連携したメニュー開発 ・あぐりちゃやの惣菜・弁当メニュー開発等 ・スポーツ関係者への栄養指導	・使用する食材が季節により変動する ・スポーツ関係者との機会創出・企画

④食育読書祭プロジェクト

■プロジェクト概要

食育と連動した読み聞かせの充実を図る。

■目指す姿

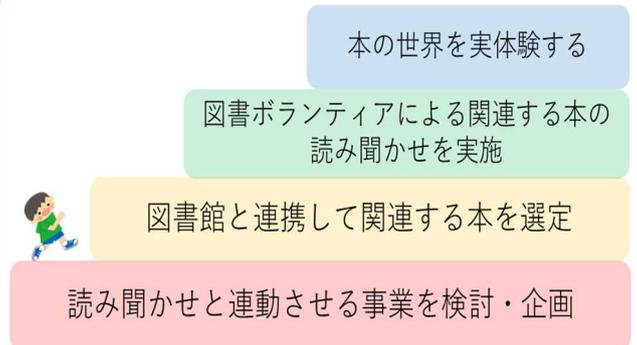
- ・読み聞かせを通じて、子どもたちに様々な食に関する知識を伝えることができる
- ・読み聞かせボランティアが増え、様々な場で活躍している。

【実現までの課題とチャレンジ例】

【課題】	【解決策】
・読み聞かせボランティアが少ない	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書ボランティアとの連携 ・活動周知による発掘 ・学生ボランティアの募集
・読み聞かせをできる機会が少ない	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館事業との連携 ・保育所・学校との連携 ・イベントへの連携・出店 ・図書館との連携
・読み聞かせと実体験のコラボが難しい	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター育成



【プロジェクトのステップアップ】



【地域の動き】	【課題】
<ul style="list-style-type: none"> ・日詰のクラフトマーケットで食育講座の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における子ども向けイベントの安全開催
<ul style="list-style-type: none"> ・図書館との連携事業を協議 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画の検討 (書籍種類が多いため、連携する事業の決定を優先させる) ・事業主体の不在

⑤野菜いっぱいプロジェクト

■プロジェクト概要

種まき、栽培、収穫、販売の一連の体験を通じて地域に多様な交流の場を創る。

■目指す姿

- ・栽培から販売までを体験できている環境がある。
- ・農業を通じて地域に交流の輪が広がっている。

【実現までの課題とチャレンジャー例】

【課題】	【解決策】
・栽培技術がない	<ul style="list-style-type: none"> ・地域農業者とのつながり ・農業体験の充実 ・図書館の活用
・栽培できる畑がない	<ul style="list-style-type: none"> ・人農地プランの実質化 ・体験農園の拡充
・農産物の販売方法がわからない	<ul style="list-style-type: none"> ・給食や老人施設、こども食堂への提供 ・朝市や産直への出店
・人を巻き込むことが難しい	<ul style="list-style-type: none"> ・ツーリズム体験との連携 ・保育所や公民館との連携 ・コーディネーター育成



【プロジェクトのステップアップ】

農作物を地域保育所に
寄付したり朝市に参加して販売

交流イベントを合わせて企画・実施

農地で年間を通じた栽培体験を企画・実施

単発の農業体験の機会を創出

【地域の動き】	【課題】
・もち姫研究会による播種から栽培、収穫までの体験会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が少ない ・情報発信
・ツーリズム協議会による事業展開	<ul style="list-style-type: none"> ・運営の企画・コーディネーターの確保・育成
・保育所での農業体験の機会の創出	<ul style="list-style-type: none"> ・継続できる事業化検討 ・交通手段の確保 ・受入れ農家の適正謝金
・民間団体による農業体験イベントの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・運営主体 ・事業費確保

⑥農家と事業者をつなぐプロジェクト

■プロジェクト概要

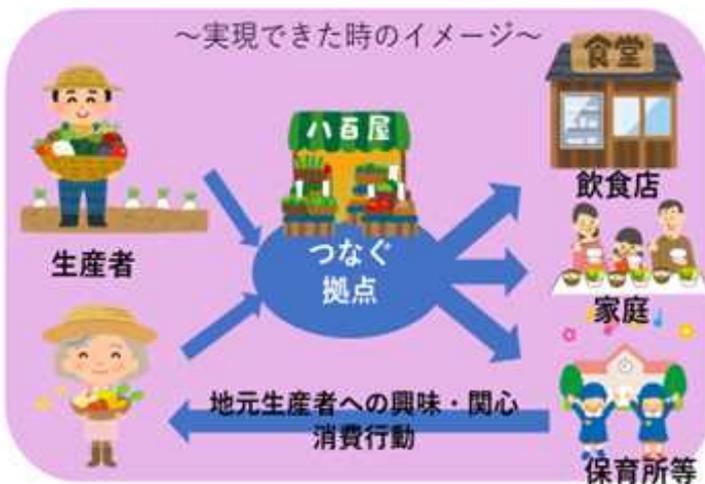
生産者と消費者をつなぐ仕組みづくりを行う。

■目指す姿

- ・飲食店や保育所で地元食材が活用されている。
- ・“顔が見える”生産者とのつながりがある。

【実現までの課題とチャレンジ例】

【課題】	【解決策】
<ul style="list-style-type: none"> ・農業者とのつながりがなく、どうすれば地元食材を安定的に購入できるか分からない 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者情報の発信 ・マッチング機能の確保・育成 ・生産調整と安定した出口の確保
<ul style="list-style-type: none"> ・地元で食べて欲しい一方、少量注文に個別にすることは手間が継続が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物の受発注システムの導入 ・拠点集荷による配送負担の軽減
<ul style="list-style-type: none"> ・町内流通（集荷・配達）が確立していない 	<ul style="list-style-type: none"> ・物流拠点の整備 ・集荷・配送の仕組み化（稼ぐ仕組み）
<ul style="list-style-type: none"> ・通年での安定供給が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産現場の理解 ・加工と保存体制の構築（カット・冷凍等）



【プロジェクトのステップアップ】

地元農産物を
利用するようになる

流通（集荷・配送）を担う人材の発掘

通年農作物カレンダーを作成・受注

地産地消に関心のある農業者を探す

地元農産物を情報発信し関心をひく

【地域の動き】	【課題】
<ul style="list-style-type: none"> ・任意団体による食材仲介事業が開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者による配送負担 ・生産者・購入者の開拓 ・仲介事業の採算性の確保
<ul style="list-style-type: none"> ・保育施設での地元農産物の利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者による配送の負担 ・配送費用設定
<ul style="list-style-type: none"> ・保育所・介護施設等への町産食材活用への意向調査 	
<ul style="list-style-type: none"> ・生産者情報の発信（JA、町の広報等） 	

⑦紫波町のセントラルキッチンプロジェクト

■プロジェクト概要

町内にセントラルキッチンを整備し、カット・冷凍などの加工をすることで販路の幅を広める

■目指す姿

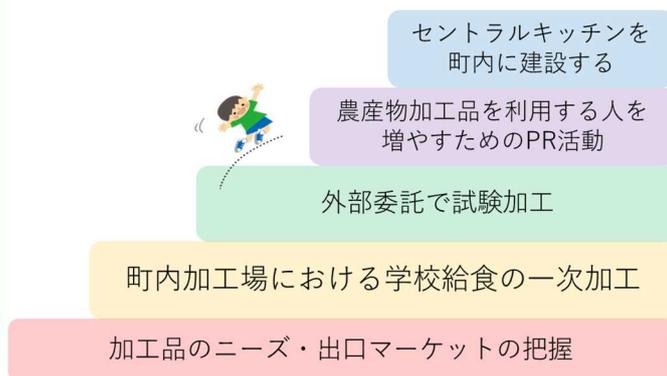
- ・町内農産物加工により販路が広がっている。
- ・生産者が安心して生産できる仕組みがある。

【実現までの課題とチャレンジ一例】

【課題】	【解決策】
・初期投資の確保	・制度設計が必要 ・補助金等の活用
・運営主体の確保・育成	・仕組み構築によって民間の参画
・農業生産基盤の確保	・担い手確保・機械化による生産性向上
・加工品の出口確保	・物流アドバイザーの登用



【プロジェクトのステップアップ】



【地域の動き】	【課題】
・町内の加工事業者で学校給食納入食材の一次加工	・物量の確保 ・衛生管理・HACCP対応の徹底
・町外加工事業者と連携し、町内製品の加工、商品開発を実施	・加工・保管・ピッキング・発送分野のビジネスチャンスが町外に流出
・学校給食センター建設の検討会への提案	・産業分野(物流・出口マーケット)と、企画・教育分野(手法検討)の庁内連携

⑧コミュニティナース*農業体験農園プロジェクト

■プロジェクト概要

農業体験農園とコミュニティナースが連携し、地域に農と健康の拠点を創る。

■目指す姿

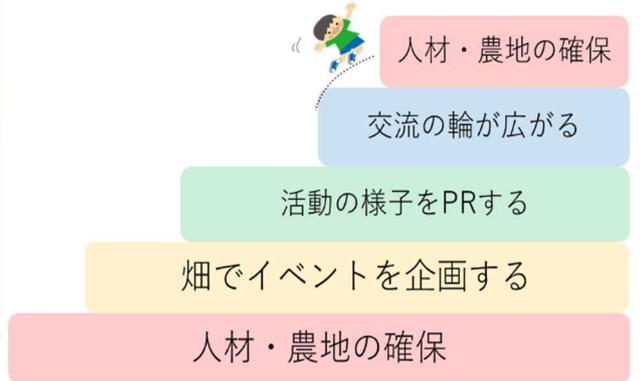
- ・多様な主体が能の現場で活躍する。
- ・居場所があることで健康寿命が延びる。

【実現までの課題とチャレンジ一例】

【課題】	【解決策】
・農業者が高齢化している	・農業サポーターの活用 ・体験・交流から就農へ
・休耕地がたくさんある	・移住勧誘 ・農地の多様な活用の提案
・農業技術がナースにない	・農業者との連携
・体験農園を運営する人材がない	・農業サポーターの活用



【プロジェクトのステップアップ】



【地域の動き】	【課題】
・農地面積、関係者を巻き込みながら体験農園の継続実施	・運営主体、農地法等の課題の整理 ・人材の確保 ・採算性の確保
・新たな体験農園設置希望者	・運営主体、農地法等の課題の整理 ・採算性の確保